

令和6年度 第4回田原市地域公共交通会議会議録

会 議 名	[第70回] 令和6年度 第4回田原市地域公共交通会議
開 催 日 時	令和7年3月27日(木) 9:30～10:55
開 催 場 所	田原市役所 講堂(南庁舎6階)
出席者氏名 (敬称略)	(委員) ○田原市副市長 鈴木 亨[会長] ○田原市都市建設部長 河邊 俊和[副会長][議長] ○豊鉄バス株式会社常務取締役 (代理)荒島 丈博 ○豊鉄ミデイ株式会社取締役支配人 西山 恭昭 ○渥美交通株式会社代表取締役 鈴木 雅 ○公益社団法人愛知県バス協会専務理事 小林 裕之 ○愛知県タクシー協会豊橋支部長(豊鉄タクシー(株)取締役社長) 長縄 則之 ○豊橋鉄道株式会社代表取締役社長 (代理)坂野 慎 ○田原市老人クラブ連合会長 長神 隆士 ○田原市地域コミュニティ連合会長 眞木 泰弘 ○田原市商工会副会長 天野 英一郎 ○一般社団法人田原青年会議所理事長 (代理)加子 貴啓 ○国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 (企画調整担当) 宮川 高彰 ○豊橋鉄道労働組合中央執行委員長 松下 裕紀 ○愛知県都市・交通局交通対策課担当課長 (代理)森本 恭平 ○豊橋技術科学大学建築・都市システム学系准教授 松尾 幸二郎[副会長] ○一般社団法人渥美半島観光ビューロー事務次長 彦坂 真 (事務局) □都市建設部街づくり推進課長 鳥居 伸光 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係長 大堀 篤志 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主事 樽谷 佳奈子 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主事補 川嶋 勇希 □都市建設部街づくり推進課 都市政策係主査 山本 貴士 □福祉部高齢福祉課長 河合まり子
欠席者氏名 (敬称略)	○伊勢湾フェリー株式会社代表取締役社長 宮脇 幸次 ○田原市民生児童委員協議会主任児童委員 柴田 邦子 ○愛知県田原警察署交通課長 兵藤 収 ○愛知県東三河建設事務所維持管理課長 奥谷 敦史

報 告 事 項	(1) 田原市ぐるりんバス運行事業者審査要領について (2) 高等学校等バス通学費助成金について (3) サイクルラックバス実証実験について (4) 分科会⑥の報告(渥美地域のタクシー不足)について		
協 議 事 項	(1) 令和7年度事業計画・収支予算(案)について (2) 中山線デマンド交通実証実験 (分科会⑥の報告、デマンド区域運行、アンケート)について (3) 田原市ぐるりんバス「サンテパーク線」運行ダイヤ変更について		
会 議 の 要 旨	以下のとおり。	傍 聴 者	1名(随行者1名)
鈴木会長 (副市長)	〔 1 会長挨拶 〕 みなさんおはようございます。 本日は、年度末の大変お忙しい中、令和6年度第4回田原市地域公共交通会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃から本市の公共交通行政に対してご尽力いただいておりますことを重ねてお礼申し上げます。 本日の協議事項は、令和7年度事業計画収支予算案そして中山線デマンド交通実証実験および田原市ぐるりんバスサンテパーク線運行ダイヤ変更について協議いただく重要な会議となっております。特に事業計画収支予算の審議では、事業の必要性や財政の健全性に配慮しながら慎重かつ建設的な議論となりますよう期待しております。また、報告事項も4件ございます。どうかみなさんの忌憚のない意見をいただき、実りある会議となるように考えておりますので、よろしくお願いいたします。 以上、簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。 続きまして、交通会議設置要綱第9条第2項に基づき、本会議の議長は会長の私が指名することになっております。副会長の田原市都市建設部長の河邊委員を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは、以後の進行をお願いいたします。 〔 2 報告事項 〕 (1) 田原市ぐるりんバス運行事業者審査要領について ※利害関係者退席 ※事務局より説明【資料1】		
松尾副会長 (技科大)	価格要素が35点から40点に上がっており、プロポーザルで通常40点というのは結構高いと思います。財政状況も鑑みながらというのがもちろんあるとは思いますが、バスの運転手確保は非常に重要な状況というのはご存知の通りで、その大きな要素として、運転士さんの賃金を上げていかないといけないというのがずっと言われています。価格部分を重くするとその部分が逆に働いてしまうのではないかと懸念があります。今後上げることも想定して提案してくると思う。もしそうするのであれば、逆に例えば、3番の乗務員確保体制等というところが、現状の管理体制とか確保体制ということだと思いますが、これは今後ちゃんと運転士確保に向けて、賃金を伸ばしていくとか、今の賃金の見方に合わせるかそれ以上伸ばして		

事務局	いくみたいな評価がどこかに入っていた方がよいのではと思います。よく指定管理者のプロポーザルだと見積りの時に何%を伸ばしていくみたいな、その3%が今現状の平均の賃金の伸び率よりもさらに上げると加点があるとかあったりするもので、そういうのもご検討いただいた方がいいのではないかなと感じました。 乗務員確保体制等の採点の視点に、もう少し具体的な内容を書かせていただきたいと思います。配点につきましては、確かに他市と比べると高いかもしれませんが、ここ数年間、ほぼ同じ事業者の参加となっています。事業者の運行状況も把握しており、競争がないといったところも踏まえて、価格点の方を少し上げさせていただいております。
天野委員	商工会の天野です。よろしく願いいたします。商工会の立場から申し上げさせていただくと、地元の方、商工業者にとって、この審査が公平なのかどうかということがあって、業者が固定化されている理由が何なのかということにはわかりません。商工業者の育成と保護というこのバランスをとる観点が商工会の視点としてはありますが、一つは、公共工事的な内容を多分に含んでいるので、業者の育成という観点がどこに入ってくるかということが疑問なところがあります。 また、雇用の場の確保ということがありますので、地元のドライバーさんをどの程度、何割採用するかといった目標なんかがお示しいただけると、皆さんにとってジャッジしやすいのかなというところがあります。ただ、その雇用も、子育て世代の人たちを雇用しているのか、それともひょっとしたら60歳過ぎた方たちを再雇用して安価な方として使う傾向があるのか、ここもちょっと見ていただきたい気がします。商工会としてはちょっとそういうところが気になりました。
事務局	先ほど松尾先生がお話したように、ドライバーが今非常に不足しています。そもため、市内の方だけで賄っていくことは非常に難しいと考えていますが、今言われた、どの程度市内のドライバーがいるかどうかは、これからもしっかり把握しながら進めていきたいと思っております。 参加事業者が固定されていて他社が入ってこないのは、このドライバー不足が要因と捉えており、これから多くの会社が参入してくることは困難な状況だと考えます。これが例えば、ドライバーの賃金が上がったとかして環境が変われば、新たな事業者が手を上げることもあるかもしれませんが。
松尾副会長 (技科大)	運転士の部分の追加で、プロポーザルだと上限価格を設定されると思いますが、その時の価格設定でも、ぜひ、先ほどの賃金の上昇分を適切に考慮いただいた方がよいと思いますので、よろしく願いします。
河邊議長 (都市建設部長)	それではですね、本件報告が終わりましたので、退席されています委員さんに席に戻るよう案内をお願いいたします。 (2) 高等学校等バス通学費助成金について ※事務局より説明【資料2】

天野委員	1 点目が、市内の在住者でなければいけない理由を教えてください。 これは何かというと、田原市以外から、例えば渥美農業高校とか福江高校に通われる生徒さんへの補助があってもいいのではないかなと個人的には思っています。もう1つは、田原市から豊橋市の方向に通われる方の市内の補助は良いと思いますが、市外へ出たところの補助金を出す理由が私はちょっとわからないので教えてください。
事務局	市外の方への補助につきましては、市の税金を使うということを踏まえて市民だけを対象とさせていただいています。 次に、豊橋の学校に出る方への補助金につきましては、まず、市内の田原駅までの豊鉄バスの定期代の補助ということで、そこから先の電車の定期代の補助はいたしません。 説明にもありましたが、例えば渥美地域に住んでいる方が、時習館高校に通いたいといったときに、ここに書いてあります年間32万円かかります。豊橋の高校に通うからといって、補助一切なしでは、住み続けていただけなくなります。実際あることですが、桜丘高校に渥美から兄弟2人で通う場合、アパートを借りて引っ越す家庭もあります。しっかりした教育を受けていただきたい目的で補助をしています。ただ、3割補助と5割補助、豊橋の高校に通う方は田原駅まで3割補助。福江から成章に通う方は5割補助ということで差別化を図っているということです。
天野委員	私どもが申し上げたいのは、学校は病院とか同じで、公共の器であって、これがなくなると地域が崩壊してしまう。そのための戦略的な補助でやって欲しいと思っています。ですから、市外から渥美農高や福江高校へ通われる方に対しても補助金があれば、その意味合いがどういうことかが説明できれば、税金として導入してよいのではないかと思います。どこが選ばれてもいいと思うんですよ。ただ、市外の高校であるのは、それは権利なので、戦略的な意味として評価して、税金の使い方を決めればよいと思います。そういうことを加味していただける方がよいのではないかと考えております。
河邊議長 (都市建設部長)	補助事業を検討する上で、市外からの通学も検討した上でこれを選んだ経緯がございます。トータルの予算の関係なども含めて、今回こういった形になっております。
宮川委員	愛知運輸支局の宮川です。ご説明の中で令和7年度からというのがありましたけれども、そこで補足の説明をお願いしたいのですが、今年入学を考える子たちはこの補助について知った上で対応できたのか、高校選びとかを考えるのは来年からになるのかというところを教えてください。
事務局	今年の入学式の説明会のときに、今回5割補助をするということでお伝えさせていただいています。 (3) サイクルラックバス実証実験について ※事務局より説明【資料3-1、3-2】

松尾副会長 (技科大)	ものすごく興味深い取り組みだなというふうに聞いていました。利用者へのアンケートはこれから集計されるということですが、これは、載せられる場所はどこか、バス停でもいいのか、それとも、例えば三河田原とかある程度整った空間があるようなところなのか教えてください。それにも関連しますが、載せる時に、どのぐらい実際に(時間が)かかっていたのか教えてください。
事務局	今回の実証実験では基本的には、田原駅や渥美病院で実施しましたが、降車する場所については、警察署前や42号線途中の道路や片側歩道のバス停で降ろした実績もあります。基本的にはどこでも降ろせる感じはしましたが、後続車が詰まったりした時もあったので、今後検討していきたいと思っております。 載せる時間、降ろす時間は概ね2分ぐらいでしたので、ダイヤの遅れとしてもその程度であると感じております。 今後、運転手のヒアリング等を実施しながら、本当にどこでも載せられるのか検証し、もし、降車場所・乗車場所にスペースが必要であるということであれば、どこにするかといったことを整理して、次回、方針を報告ができればと考えていますので、よろしくお願いします。 4) 分科会⑥に関する報告について ※事務局より説明【資料4-1】 ※愛知県より説明【資料4-2】
森本委員	愛知県交通対策課の森本といいます。この説明のお時間をいただきありがとうございます。今お話いただきました愛知県の次年度事業につきまして説明いたします。今回の経緯としましては、今年度、令和6年度に愛知県の人口問題対策検討会というものがあまして、田原市さんにご参加をいただき、その中で地域交通コアワーキングを実施し、県内の交通の確保について議論をして参りました。その中で、これまで県はどちらかというと広域的な幹線ですとか、広域的な公共支援を重視してはいたしましたが、今後は地域内の交通にも、県としても積極的に支援をさせていただきたいということで、この事業を予算計上しまして、来年度実施をしていくことになりました。 事業概要の説明ですが、事業名を公共ライドシェア実証推進事業としております。目的としては、持続可能な地域交通の確保維持に向けて、近年制度緩和がありまして、派生しやすくなっていると思われる公共ライドシェアなどの地域が主体となって運行する交通モードの立ち上げをして支援していくものです。
河邊議長 (都市建設部長)	通常の路線バスやコミュニティバス、自治体や事業所が必要なものも含めてなんですけれども、それに加え、公共ライドシェアのような地域の方が主体になっているところを推進していければと考えています。内容としましては、来年度2025年度は地域でそういった立ち上げに向けて行われるようなワークショップのようなところに、専門人材コーディネーターといいます、多くの方を県のほうから派遣をしまして、地域交通の知恵のご提供ですとか、論点の整理、会議の進行・取りまとめ等を担いながら、地域での協議を活性化させていただくような審議を支援でき
松尾副会長 (技科大)	

河邊議長 (都市建設部長)	ばと考えております。 具体的な進め方ですとか日程ですとか、どういった方が派遣できるのか等は今後、田原市さんも含めて、相談しながら調整させていただきたいと思っております。イメージは図の通りでして、国土交通省の補助金の申請を現在しております。それを受けまして、専門人材の方を県で手配し、地域の取組に支援させていただくことを考えています。ここが重要なところなのですが、国土交通省さんの補助事業の採択を前提としているものがあり、今ちょうど公募が出ておりまして申請の準備をしております。ただ、競争が激しい補助事業ですので、実施がどうなのかというのがまだ確定できませんので、その点はご了承いただければと思います。 先ほど採択の候補をご説明いただきましたが、今の時点では県内で、3つの地域を検討して選定をさせていただきまして、その中に田原市さんも含めさせていただいているということです。その3地域をもって、申請書類を国の方に提出をして、審査を受けるということになっております。 また状況を逐次ご報告いただきながら、なんとか来年度ご支援させていただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。 【3 協議事項】 (1) 令和7年度事業計画・収支予算書(案)について ※事務局より説明【資料5】、天野監事から監査報告 ※質疑等なし ただいまの協議事項について、承認いただける方は挙手をお願いします。 ※全員挙手。全会一致で承認。
松尾副会長 (技科大)	(2) 中山線デマンド交通実証実験について ※事務局より説明【資料6-1、6-2、6-3、6-4】 資料6-3のアンケートで、コメントさせていただきます。裏面の問4について、乗車中に記入するため、記述式より、選択の方が答えやすいのかなと思います。あまり細かく答えてもらっても意味がないと思うので、今予定している「前日の16時まで」とか、「当日利用する1時間前」とか、いくつか想定するものを3つ4つ挙げておくを選びやすいと思いました。 次に問6が、ちょっと僕も改めて見て、四つ組み合わせになっているのが分かりにくいと今改めて思いました。ここで言う中山線は定時定路線のことですよね。これは、問7で聞いているので、よく考えたら無くてもよいなと思いました。そうすると、年間や月間予約があるなら利用する、利用しないの2つになるので、非常にシンプルになると思いました。また、当てはまる番号すべてに○ではなくて、1つに○に変更ください。 問7の現在どの程度中山線を利用していますか、の中山線は定時定路線のことですよね。なので、中山線(定時定路線)とか括弧をしていただけるといいのかなと思います。ですが、多分アンケートの設計というか考え方としたり、デマンドも中

宮川委員	山線という位置付けで、2種類あるという位置付けだと思いますので、問7のところも定時定路線の利用としていただくと混乱が少ないかなと思いました。以上です。 愛知運輸支局の宮川です。中身についてのお話ではないですが、今回これが承認されたら運送事業者を決定して、ということで、また6月の会議で最終的な案を受けてという形でよろしかったですね。今回の会議で特に変更がなくこの内容でよろしければ、事務局と支局のほうで調整をさせていただくことをお許しいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
河邊議長 (都市建設部長) 事務局	このアンケートは、デマンドの運行の際に利用される方が対象になるのか、それとも現在、定時定路線で利用されている方が対象になるのか。 現在、定時定路線に乗られている方が対象です。
河邊議長 (都市建設部長)	ただいまの協議事項について、承認いただける方は挙手をお願いします。 ※全員挙手。全会一致で承認。 (3) 田原市ぐるりんバス「サンテパルク線」運行ダイヤ変更について ※事務局より説明【資料7】 ※質疑等なし ただいまの協議事項について、承認いただける方は挙手をお願いします。 ※全員挙手。全会一致で承認。 [4 その他] (1) 意見・情報交換
坂野委員	・東三河 MaaS の実施について 豊橋鉄道の坂野でございます。お手元に資料ございますが、東三河 MaaS いこまの実施につきましてご報告を申し上げたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは資料に基づきまして説明させていただきます。 この度、愛知県の令和6年度新モビリティサービス推進事業、MaaS 実証事業の業務委託を受けまして、実証実験ということで実施して参りました。その概要について、以下に記してございます。現状、東三河地域の公共交通は、田原市さんはじめ、他の市町さんも人口減少や少子高齢化ということが課題でございまして、地域交通は、必要な社会インフラサービスである、こういう背景がございまして、 いかに利便を上げて、或いは利用頻度を高めていくかということにつきましては、単なる地理情報だけではなくて、やはり外からお客様もしっかり呼ぶということも大事でございまして、地区の中の住民の方もしっかり利用していただくという

その両面が必要だということでございまして、観光情報だけではなく生活情報をしっかり発信をしていくと、こういう必要があったこととございます。

実証の期間につきましては、昨年10月15日から1月31日までの間、実施しまして、田原市さんをはじめ、東三河地域の8市町村を対象といたしました。

1枚おめくりいただきまして、具体的な機能ということで記してございます。先ほども言いましたように、バスや鉄道等の交通情報、経路検索はもちろんでございますが、そこに各市町村さんからお出かけ情報ですとか、そのおでかけ情報だけではなく、しっかりお出かけを誘発するようなコンテンツも機能として始動したということとございます。下に具体的なスマートフォンで画像を載せてございます。もう1枚おめくりいただき、お客様の誘発ということになりますと、豊橋鉄道はじめ、豊鉄バスを使った各企画乗車券のご案内、デジタルチケットで購入できるようなご案内、さらには、いろんな企画もこのいこまいの中に盛り込みまして、そのためのお客様の利用促進、誘発に結びつけるというものでございます。

もう1枚おめくりいただきまして、この実証期間中の実績等を記載させていただきました。利用された数でございますが、実証期間中に8809名ということとございます。少数は少ないですが、アンケートを取らせていただきまして、140名の回答ということで、抜粋で記載をさせていただいております。

特に2番ですね、今後このいこまいを使いたいと思うかというアンケートに対しては、79%の方が今後使いたいという回答をいただいております。

それから3番ですね、今後使ってみたいという機能については、主要機能を補完するものとして、やはり観光のモデルコースですとか、地域の生活情報、こういったものを充実させて欲しいというようなご意見をいただいております。

さらに4番ですね。今後求める機能ということで、やはりもっとお得な情報、或いは利便性が高まるような情報、やはり経済的なメリットを求めるような意見をたくさんいただいております。

こういったアンケートを踏まえまして、今後の課題ということでございますが、シームレスな利用のため、各市町村での連携をさらに強めていくということ。それから、様々なユーザーの方がいますので、新鮮な情報ですとか、これ運行情報だけではなくて地域情報含めてということの提供を、さらには、お得感を前面に出して価値のあるチケットやクーポンの提供といったものが課題として上がってきたというところでございます。

最後のペーパーになりますが、今後の予定ということで、今年度以降につきましては、この東三河の8市町村様と私も豊橋鉄道の方で会議体ですね、この黄色の枠に書いてございますが、この東三河推進連絡会議ということで立ち上げをいたしまして、さらに機能の向上に努めて参りたいと思います。

また一部ですね、3番に書いてございますが、バスロケーションシステムを少し見直したいと思います。こういったものを加えながら、令和7年度この東三河MaaSは動かして参りたいと思っております。令和8年度、令和9年度は、こういったものをさらに継続をいたしまして、地域公共交通の利用促進、それから観光交流をさらに高めるような取り組みをして参りますので、引き続きご協力の方お願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

・manaca、伊良湖支線の路線カルテ、伊良湖支線延伸による菜の花ガーデンの利用状況について

荒島委員	豊鉄バス荒島と申します。豊鉄バスからは補助金における動きとして2点ほど、資料はございませんが、紹介させていただきたいと思います。 まず1つ目ですが、我々の路線バスに交通系ICカードを導入しました。この事業は、国、県さん、また田原市さんをはじめとする5市町さんよりご支援いただきながら、3月15日に無事サービスを開始することができました。その中で、利用方法や乗り継ぎ割引などの情報はすでにホームページや田原市民の方においては、こんなパンフレットですが、全戸配布しております。もしよろしければ、私が10部ほど持っておりますので、会議終わってからお声掛けいただければお渡ししたいと思います。 導入後の状況ですが、ICカードの利用率は、まだ2週間ほどですけども、約40%弱となっています。これは定期抜きの数字です。これは、利用が高まって直接の現金の扱いが減ると、両替がなくなったりしてスムーズな運行に寄与していくので、だんだん高めていければなと思っております。2週間ほど出しましたけども、思ったよりもスムーズに運行できる状況かなと思います。 二つ目ですが、菜の花ガーデンへの伊良湖支線の乗り入れですが、2月1日から菜の花まつりの開催に合わせて、土日祝日のみですが、1日6便乗り入れしております。こちらの状況については、一番多い日で20名ちょっとの方が利用されています。少ない時は一桁で1人2人。これは天候に左右されて結構、差があるかなと思います。田原市さんと路線の維持確保に向けてやっている事業として、引き続き来年以降、一緒になってまた相談しながらやっていけたらなと思っております。以上です。
事務局	伊良湖支線の利用者数の合計というのは平日と土日のどちらでしょうか。
荒島委員	こちらは平日の利用者数、2日間の合計です。
松尾副会長 (技科大)	・高校生アンケートの結果について 前回の会議の時に、速報という形でご説明させていただきましたが、今年度の田原市大学連携事業で、私ども大学の自身の研究室で高校生に対するバス利用に関するアンケートをさせていただきました。その報告書ができましたので配布していただいたことになります。内容が結構多いので、またお時間のある時に読んでいただければと思っておりますが、1点だけ、せっかくですのでご紹介させていただくと、31ページ32ページというのは、田原市在住の高校生とその世帯、保護者の方に回答をしていただいた結果を集計したものです。図の32が、現在豊鉄バスを使って通学している高校生の田原市が実施している通学支援の利用状況ということで、制度がなくても利用しているというのが50%ぐらい。これは制度がなくても必要なので利用しているということですが、制度があったから利用しているというのが23%ということで、それなりに大きな割合を占めているのか、やはりこの制度を実施した効果がここに表れているということになったので、かなり精度としては意義があるのではないかと考えています。また、今後利用を検討したいというところが7%ぐらいあって、これは豊鉄バスで通学している学生さんの世帯が今後利用を検討したいと言っていて、おそらく制度自体を知らなかったということだと思います。この辺りも少し周知していくと、家計の負担の軽減にもなるのかなということ

事務局	です。 図の 33 は現在バス利用していない高校生についてですが、その大きな理由が、通学定期券が高いために利用していないということが 15.6%、この辺りが先ほどあった割引が 5 割になるというところで、もう少し促進される可能性があると考えています。 その右のページ、32 ページの図の 34 です。こちらは通学定期を持っていると、ぐるりんバスを無料で乗れるようになるとすると、通学定期を買うことに対して検討するかどうかというのを聞いたものです。バス通学していない人については、ぐるりんバスを無料で乗れるようなら検討するというのが 4 割ぐらいいます。これアンケートなので、どちらかという政策に賛成する形で回答するというのが心理的なところでありますので、この 4 割がすべて本当に検討するかどうかはわかりませんが、「通学定期を持っていると、ぐるりんバスを無料で乗れる。」といったような施策というのも今後検討してもいいのではないかと考えています。これは実際に、西尾市では、スクールバスを持っていると、西尾市内全部乗り放題になっていまして、これが結構好評。多少持ち出しが増えると言いつつ、そんなに大きな財政負担でもないと考えていますので、また、ご検討いただけるとよいのではないかと思います。 先ほど東三河 MaaS に関連して、3 ページ目の田原おでかけきっぷがありして、渥美線プラス田原市博物館観覧券がついて 1660 円ですけど、これもぐるりんバスの乗り放題にしてしまえばよいのかなと。例えば、豊川市のフリー券とか新城の券はコミバス乗り放題なんですよ。多分、現状ぐるりんバスを使っている人でお出かけきっぷを買う人はいないので、それを付けることによって財政負担は増えないと思います。売り上げにも繋がる可能性もありますので、ご検討いただくとよいのかなと思いました。 (2) 次回の開催予定について ありがとうございました。それでは次回開催予定でございます。 次回公共交通会議につきましては 6 月の開催を予定しております。 それでは皆さん、長時間にわたり、慎重審議いただき誠にありがとうございました。これをもって会議を閉会させていただきます。
-----	--